

令和4年度特色ある学校づくり推進事業報告書

学校番号（ 31 ） 学校名 豊田市立岩倉小学校

1 テーマ

地域のよさを体感し、人とかかわり合って、ともに学ぶ子
～地域の「ひと・もの・こと」に関わる体験を通して～

2 ねらい

- ①地域講師・教材等、地域の学習素材を活用した「学び合い」の学習を通して、地域の歴史・文化、自然の豊かさや大切さに気付かせる。
- ②学校の教育活動と地域とのつながりを深めることで、児童には地域を愛する心を育て、地域の方々には、児童を地域で育てていこうとする機運を高める。
- ③心の相談員や体力向上補助指導員との関わりを通して、心身ともに健康でたくましく活動する児童を育む。

3 活動内容

- ①1年生は昔遊び体験活動、2年生は梅ジュースづくりや学区探検での地域の施設やボランティアさんへのインタビュー活動、3年生は大豆などの栽培活動を通して学んだことを学習発表会等で保護者や地域の方へ情報発信した。
- ②4年生は校地内の竹を使って竹炭を作り、生活への活用方法を考え実践した。環境学習を通して岩倉の自然環境のすばらしさに気付き、自分たちの住む岩倉の自然を守るためにはどのような活動をしたらよいのかを考え発信した。
- ③5年生は「地産地食」をテーマに、地域講師を招聘し、米やシイタケの栽培活動を行った。米作りでは、田んぼを貸してくださった地域講師の方に米作りの様子を見ていただきながら栽培活動に取り組んだ。また、6年生を送る会の企画・運営を通して岩倉小の最高学年に向けての自覚を育んだ。
- ④6年生は、「ふるさと松平」をテーマに、岩倉学区だけでなく、校区外へ出かけて話を聞いたり、松平の名所を見学したりするなどの取組を行った。松平地区の歴史について学び、地域を愛する心を育むことができた。また、卒業プロジェクトの一環として、ボランティアさんへの感謝を伝える会を企画・実施したり、奉仕活動に取り組んだりして、愛校精神を育む活動を展開した。
- ⑤心の相談員を活用し、休み時間のふれあいや授業等での支援を通して児童の心の安定を図った。
- ⑥体力向上補助指導員を活用し、体育の授業補助を通して児童の体力向上を図った。

4 成果と課題

(1) 成果

- ①心の豊かな人間性の育成を図ることができた。
- ②地域の自然の豊かさや良さ、歴史などについて学び、地域への関心を高めるとともに郷土愛を深めることができた。

新型コロナで実施できなかったり制限された活動もあったが、やり方を工夫したり、対策をしたりして活動することができた。「保護者アンケート」(外部評価)の、「No.5 特色ある教育活動を行っているか」では、とても良い、良いという回答が約 83%あり、多くの保護者から承認を得ていると考えられる。また、「運動会の練習や普段の清掃をフレンド班で行うことで、縦のつながりがたくさんあるのが岩倉小の良いところだと思います。子ども達も毎日楽しく学校に通えています」等の意見を寄せていただき、保護者が本活動を称賛していることがうかがえる。

(2) 課題

新型コロナの影響を受けながらも、地域学校共働本部との連携によって、ひともの、ことの地域資源を工夫して有効活用することができた。しかし、栽培活動において、今後水田を貸していただける農家さんへの依頼が難しくなること、水生生物調査の場所の新たな活動場所の検索など、対応策を考えていく必要がある。また、保護者アンケートで「わからない」と答えた保護者も 1 割いた。より分かりやすい情報発信を心掛けたい。

(3)「特色ある学校づくり推進事業」に補助員を配置したことによる成果

・心の相談員

- ①様々な理由から心が落ち着かず、授業に向かうことが難しい児童の話をよく聞いていただき、児童の心の安定を図ることができた。
- ②担任に話しづらいことを相談に来る児童や、もっと話を聞いてほしい児童への相談活動を行い、担任との連携を密にすることで、児童の心を安定させる部分の教員の負担を軽減することができた。
- ③心配な児童の様子（現状とその後）を観察していただき、情報交換を密にすることで、児童に合った支援を行うことができた。

・体力向上補助指導員では、教科体育の中で児童の体力の向上のさせ方について、支援や指導方法を相談したり、一緒に活動したりした。

5 保護者・地域への情報発信の取組実績

- ①活動実施後にホームページを更新し、各学年の取組を 1 回以上紹介した。
- ②学校だより、学年通信などで学年の取り組みを紹介した。
- ③授業参観や学習発表会で、特色ある学校づくり推進事業にかかわる公開授業や発表を行い、保護者の方に見ていただいた。